

# One 2025

## 中期経営計画 One2025

2023年5月12日  
証券コード:6490

**1 / 前・中期経営計画「BTvision22」の振り返り**

**2 / 新・中期経営計画「One2025」**

# 1 / 前・中期経営計画 BTvision22

振り返り

## 連結

(単位：百万円)

	BTvision19		BTvision22	
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	最終年度実績	初年度実績	2年目実績	最終年度実績
売上高	29,213	30,200	40,670	48,702
営業利益	3,683	4,847	11,392	13,842
営業利益率	12.6%	16.1%	28.0%	28.4%
ROE	6.2%	7.8%	16.8%	18.6%
配当性向	36.8%	34.6%	30.3%	30.0%
成長投資	(3ヶ年累計) 11,649	972	992	1,751
		(3ヶ年累計) 3,715		

## セグメント別

電子機器関連事業				
売上高	18,221	20,645	30,410	36,819
営業利益	2,253	4,130	9,737	11,759
産業機器関連事業				
売上高	10,915	9,471	10,146	11,844
営業利益	1,404	691	1,589	2,059

事業基盤の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>●半導体市場向けビジネスを中心に、大きく業績躍進</li> <li>●生産性向上等様々な施策により、筋肉質な事業体質化が前進</li> </ul>
グローバル化の深耕	<ul style="list-style-type: none"> <li>●海外売上比率30%と目標を達成（売上規模も拡大）</li> <li>●ジョ州ピラー工業設立し、中国市場対応を強化</li> </ul>
新事業の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コア技術を軸とし水素活用や脱炭素といった成長市場へ展開</li> <li>●産官学連携を強化</li> </ul>
ESG/SDGs経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●CDPスコア「B-」獲得。ESG取組みの開示内容を充実</li> <li>●健康経営宣言を行い、健康経営優良法人を取得</li> </ul>
財務戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>●配当性向30%と目標を達成</li> <li>●事業成長への戦略投資である福知山第2工場建設に着手</li> </ul>

現状に甘んじず、更なる企業価値の向上を目指す

## 課題

時代の流れ・要請に柔軟に対応しながら、経済価値と社会価値を創造し続ける、

## 事業構造の発展と組織構造への変革

- コア事業の進化
- 新規事業基盤の創造
- 持続発展性ある組織・人財の強化

2 / 新・中期経営計画  
One2025

## "社会を支える"未来を創る

私たちは、CLEAN・SAFETY・FRONTIERを軸に  
独自の「流体制御関連技術」と最先端の製品・技術・サービスで  
「持続可能な社会の実現」と「経済価値の創造」に貢献し続けます

### 「持続可能な社会の実現」 「経済価値の創造」

「流体制御関連技術」×「最先端の製品・サービス・技術」

CLEAN

クリーンな  
地球環境の実現

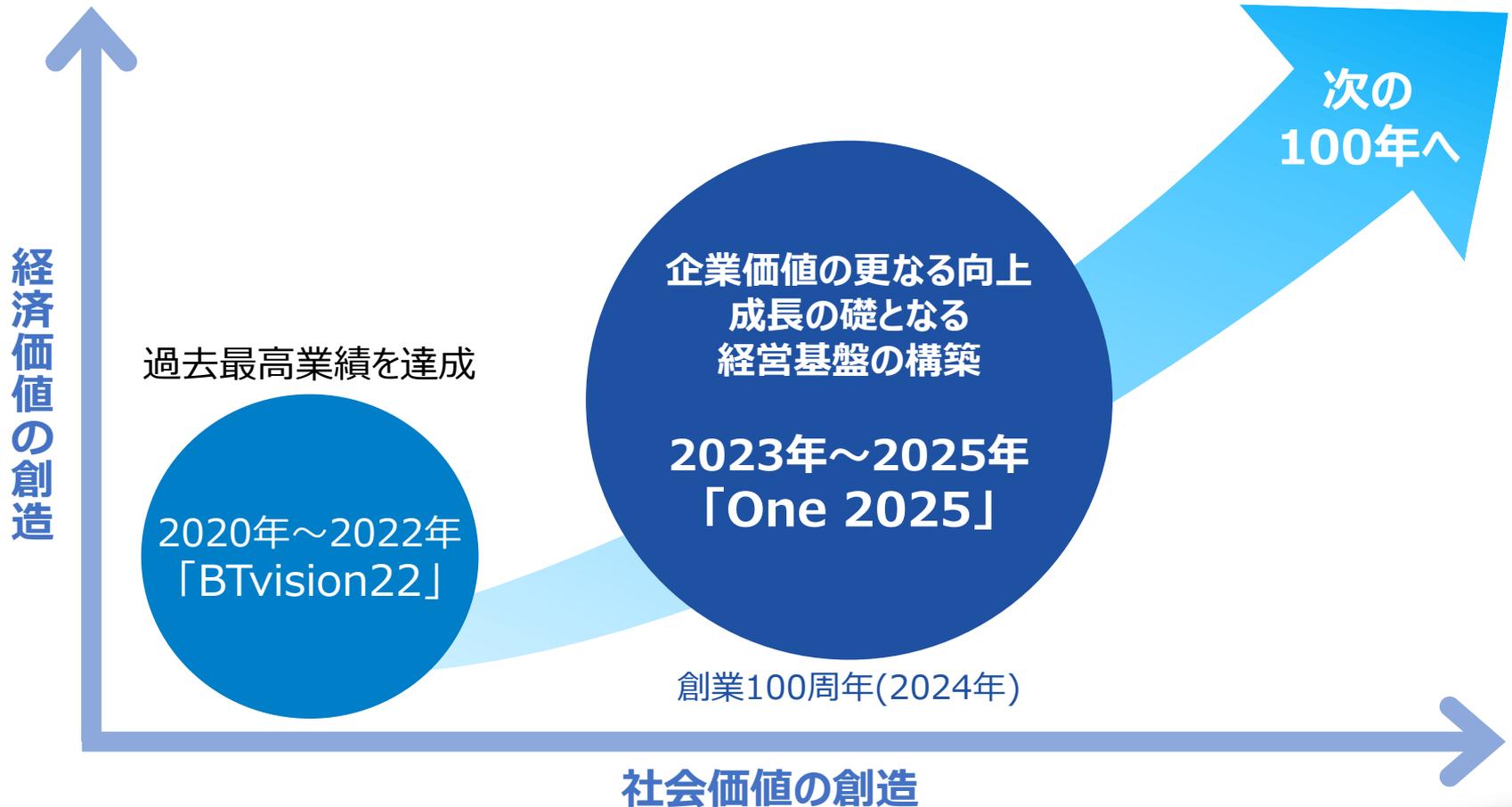
SAFETY

安全で安心な  
社会に貢献

FRONTIER

最先端を切り拓く  
新分野への挑戦

節目となる創業100周年を迎える中、  
企業価値（経済価値×社会価値）の更なる向上を目指すと共に、  
次の100年へ飛翔するための基盤づくりを行う



# One 2025

(ワン ニー ゼロ ニー ゴー)

名称に込めた4つの  
“One”

## Day One

創業1日目の開拓精神・チャレンジ精神・目的意識

## Only One

当社グループでしか成しえない独自性を追求

## Number One

(No.1)

事業だけでなく技術開発や社会貢献、人材育成でNo.1を目指す

## One Team One Pillar

当社グループ一丸となった活動

## 企業価値の更なる向上に、 事業と組織の変革・変質を推進

1	コア事業の進化	コア事業領域の更なる競争力強化だけでなく、コア技術による領域拡大に伴う成長の実現、市況に左右されない進化を経て、提供する経済価値をさらに拡大成長
2	グローバル競争力の強化	独自性の高い基盤技術の展開と、エリア特性への対応力を強化し、グローバルシェアを拡大
3	新規事業基盤の創造	半導体市場や水素・アンモニア等の成長市場において独自技術やM&A、産学連携を通して新たな事業基盤を創造
4	サステナブル経営の発展	ESG施策に加え、人材への投資と生産性向上等に寄与するDXを活用することでサステナブル経営の更なる発展
5	成長を支える財務戦略	キャッシュフロー創出力を高め、更なる成長への投資と配当性向30%以上を目標とした成長をけん引する財務戦略の推進

## 連結

(単位：百万円)

	BTvision22	One2025		
	2022年度 実績	2025年度 目標	増減	増減率
売上高	48,702	66,000	17,298	35.5%
営業利益	13,842	17,000	3,158	22.8%
営業利益率	28.4%	25.7%	-2.7 P	—
ROE	18.6%	10%以上	—	—
配当性向	30.0%	30%以上	—	—
成長投資	(3ヶ年累計) 3,715	(3ヶ年累計) 25,000	21,285	672.9%

## セグメント別

電子機器関連事業					
売上高	36,819	48,000	11,181	30.3%	
営業利益	11,759	14,500	2,741	23.3%	
産業機器関連事業					
売上高	11,844	18,000	6,156	51.9%	
営業利益	2,059	2,500	441	21.4%	

## コア事業の進化

- 需要に確実に対応するタイムリーな生産設備増強
- 独自の技術優位性に基づく市場シェア拡大
- 周辺サービスの強化による収益創出の強化

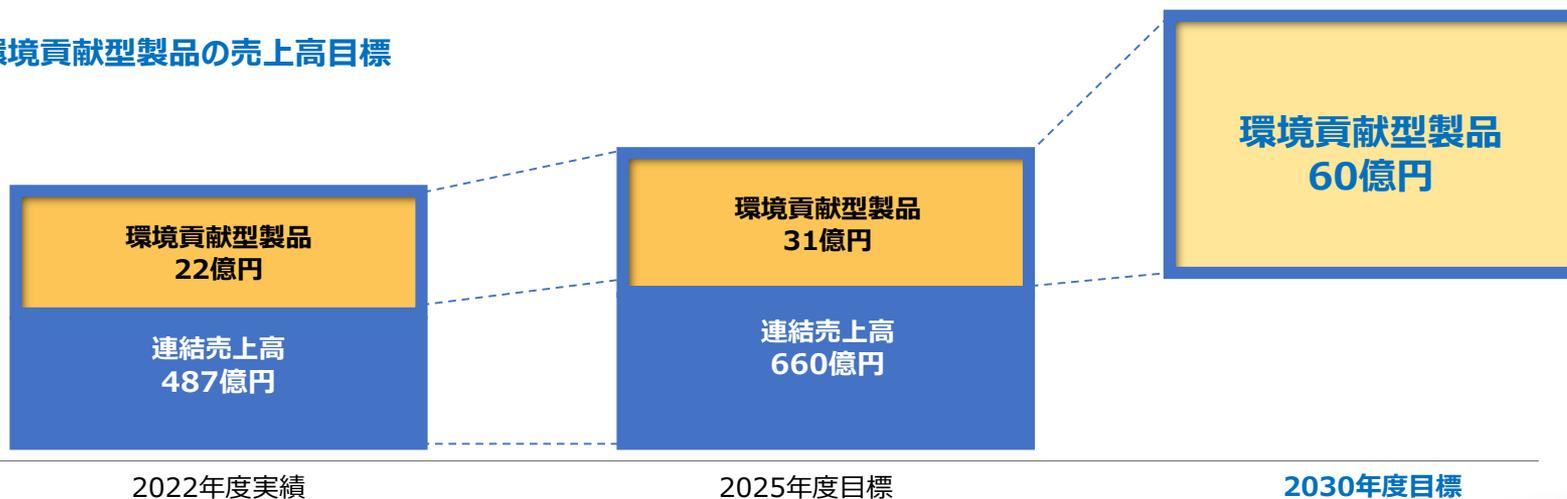
## グローバル競争力の強化

- コア製品展開による海外市場への参入強化
- 現地要求仕様に応える価格競争力の高い製品の投入
- グローバルサプライチェーンの強化

## 新規事業基盤の創造

- 環境貢献型の製品開発の強化
- 強みある素材・技術を軸とした新規市場の開拓
- モジュール化製品など、商材力の拡大による収益創出

### ● 環境貢献型製品の売上高目標



## 電子機器関連事業

One2025の  
目指す姿

進化・成長し続ける半導体市場に対する高付加価値・差別化製品の  
継続投入による強固な事業基盤の構築

## 新規事業の創出

- 次世代半導体市場や新たな概念において求められる新素材、新技術の開発と新商品の投入
- 部品製造に留まらない広範な流体制御技術を活用した事業領域の拡大
- ふっ素樹脂基板の機能拡大による新市場開拓

既存市場・製品  
の強化

- 滁州ピラーの生産機能拡大による、中国市場での市場シェアアップ
- 高付加価値商材の積極投入による欧米市場での半導体装置メーカー攻略

更なる  
競争力向上に向けた  
基盤強化

- 福知山第2工場の稼働に伴う製品供給力の拡大
- 生産技術力の継続的向上による生産性向上、コスト競争力の強化
- 樹脂リサイクルの推進による環境対応力の強化

## 産業機器関連事業

One2025の  
目指す姿“脱炭素”を中心とした社会課題から生まれる  
新市場での圧倒的なグローバルシェアの獲得

新規事業の創出

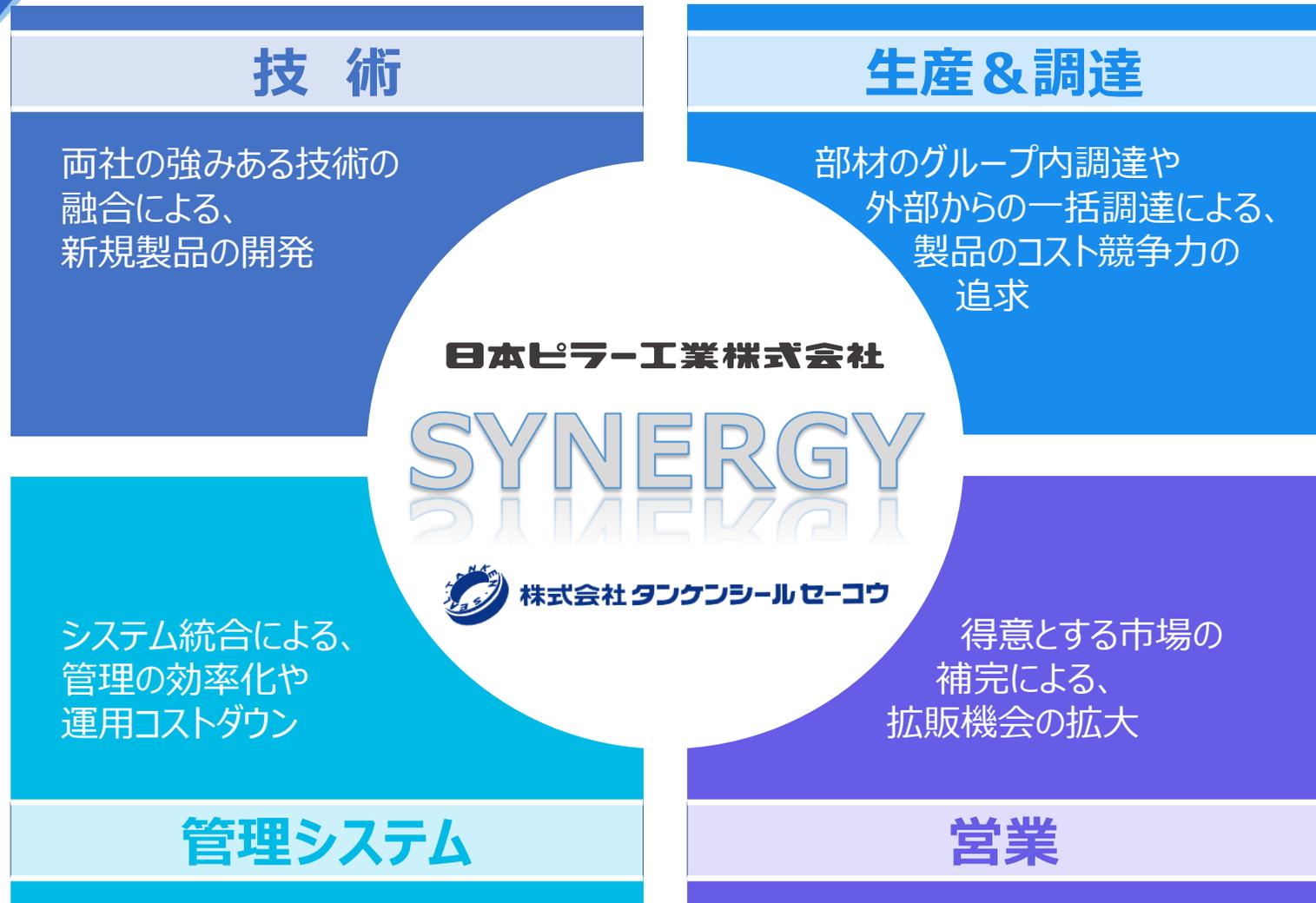
- 次世代電池、水素、EV等の成長が期待される市場への積極的な製品投入
- タンケンシールセーコウとの技術シナジーによる新市場の創出
- エンジニアリング、サービス事業への更なる領域拡大による事業開発

既存市場・製品  
の強化

- 次世代半導体装置の厳しい要求に対応するメカニカルシール（RJ）の開発
- 国際規格試験をクリアしたグランドパッキン製品のグローバルシェア拡大

更なる  
競争力向上に向けた  
基盤強化

- 開発・生産プロセスのデジタル化、プロセス改革により新製品開発のリードタイム短縮、生産効率向上を実現
- 修理拠点の機能拡充によるメンテナンス事業の拡大と収益性向上



## サステナブル経営の発展を目指し、 9つの重点目標を設定

### 重点目標

#### 環境貢献

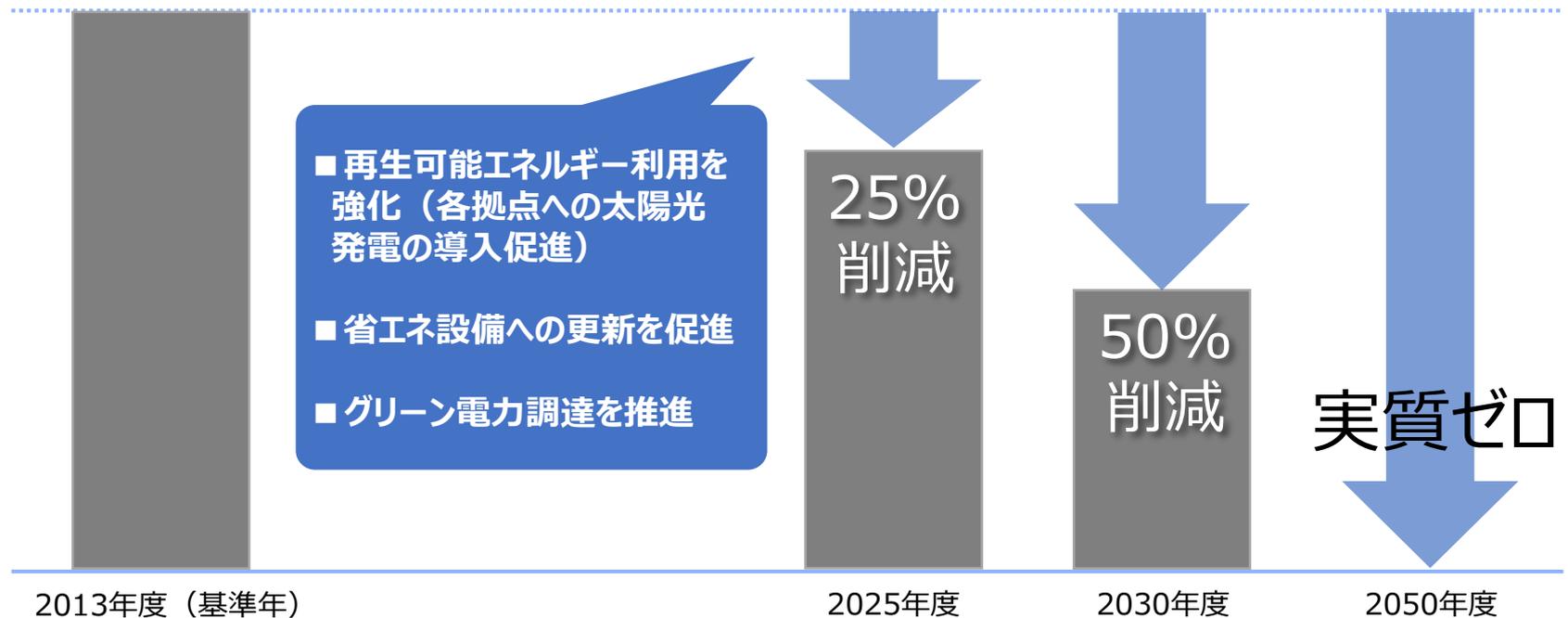
1. Scope1,2でのGHG排出量を、2013年度比で25%削減を実現する
2. PRTR法に基づく指定化学物質のうち、3物質の使用を全廃する
3. CDPスコア「B」以上の獲得と維持を実現する

#### 人財活躍 ／ 組織成長

4. 女性管理職比率5%以上を実現する
5. 男性育休取得率75%以上を実現する
6. 1人当たり人材育成投資額を20%向上する
7. 多様な人材活用に関するマネジメント研修を実行する
8. DX人材育成に、実務ツールの活用習得研修を実行する
9. デジタルツールを活用し、専門スキルの継承、高度習得の効率化を実行する

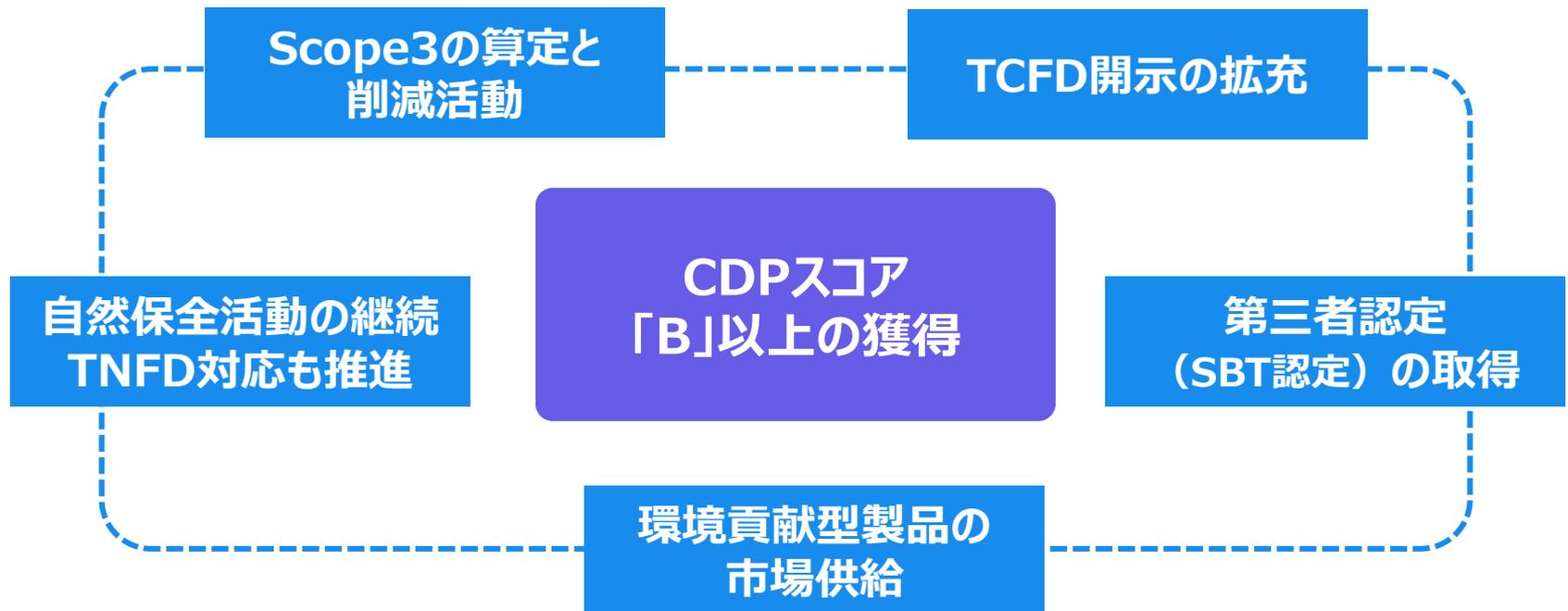
自社排出CO<sub>2</sub>削減 (Scope1&2)

2050年度、CO<sub>2</sub>排出量「実質ゼロ」実現に向け、  
2025年度までにCO<sub>2</sub>排出量25%削減 (2013年度比)

自社排出CO<sub>2</sub>量

## 環境貢献活動の更なる高度化

客観的な適切性を確保しつつ、脱炭素の取り組みを加速し  
CDPスコア「B」以上の獲得を目指す



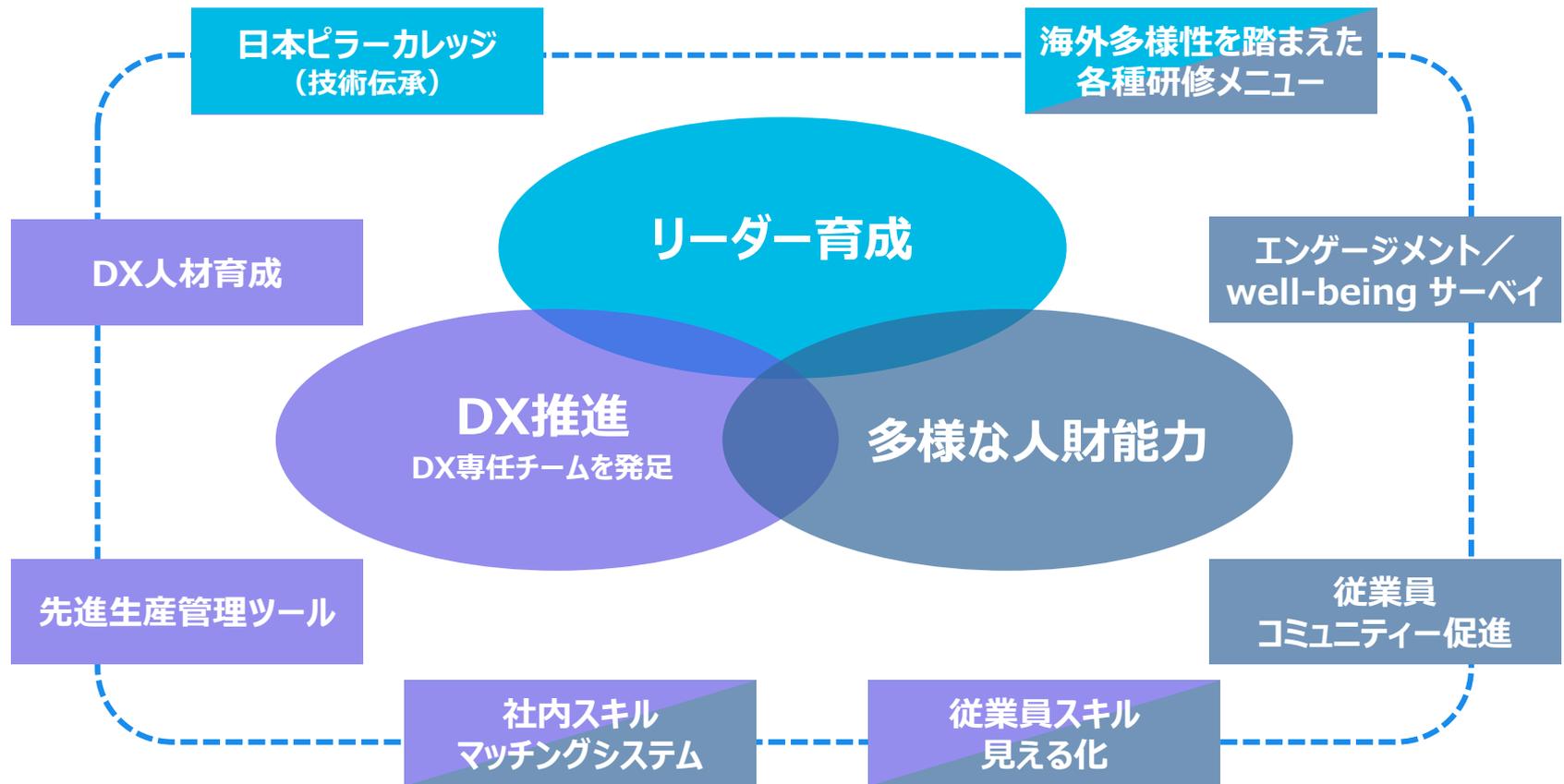
CDP : Carbon Disclosure Project  
(カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)

TNFD : Taskforce on Nature-related Financial Disclosures  
(自然関連財務情報開示タスクフォース)

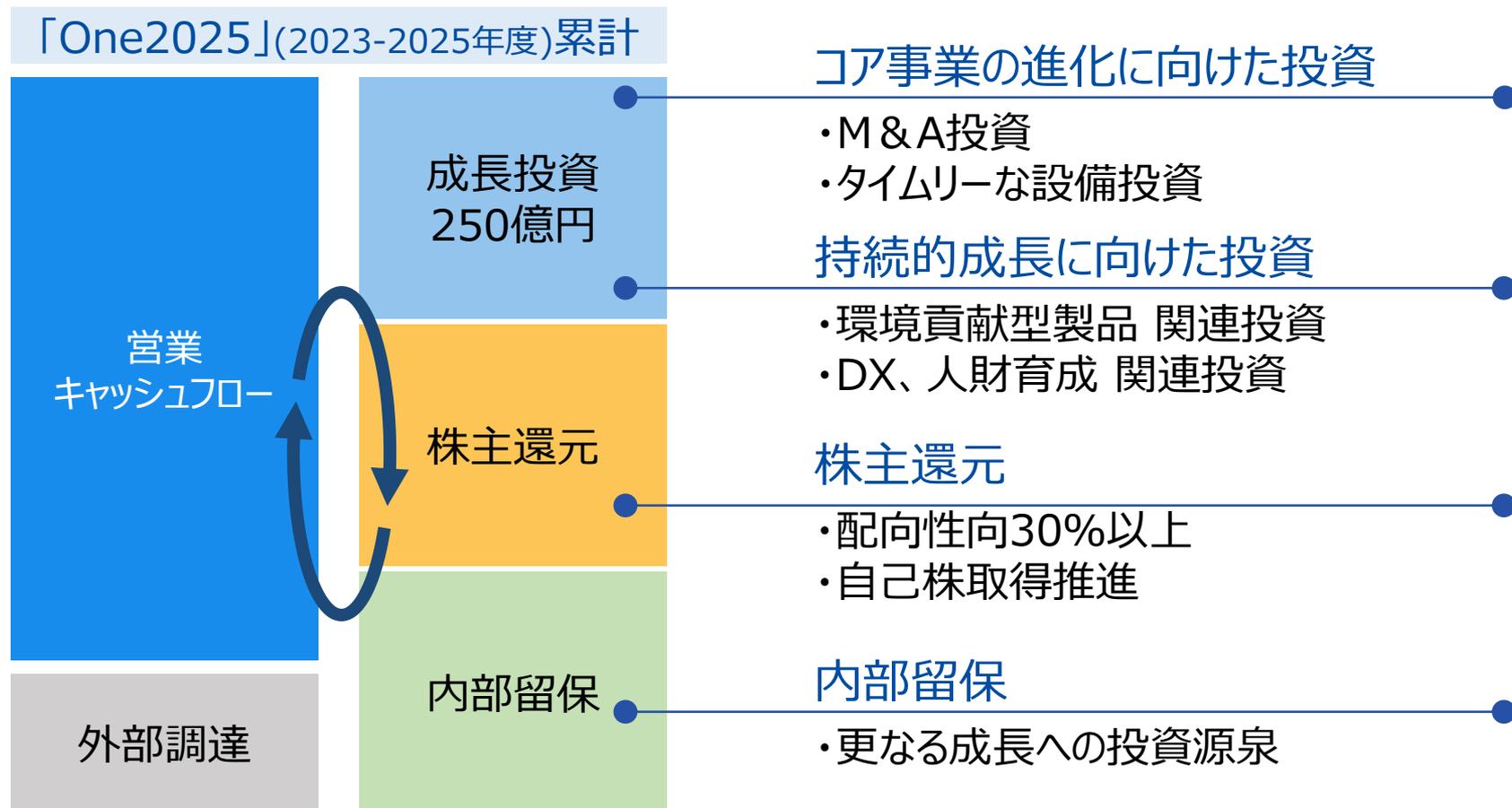
TCFD : Task Force on Climate-related Financial Disclosures  
(気候関連財務情報開示タスクフォース)

SBT : Science Based Targets (科学的根拠に基づく目標)

# 多様な人材能力を引き出し、DX／ITツールも活用して、 持続的組織成長を追求



## 十分な成長投資の財源を確保しつつ、 資本効率性を両立させる株主還元を実施



\* 各項目の大きさは予想収入・支出額を示すものではありません。



流体制御機器関連メーカー

**日本ピラー工業株式会社**

【お問い合わせ先】 経営企画部

大阪市西区新町1丁目7番1号

TEL : 06-7166-8412 FAX : 06-7166-8510

URL : <https://www.pillar.co.jp/>

- 本資料には、将来の業績に関する予想、計画、見通しなどの記述が含まれています。  
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
- 将来の業績は、主要市場の経済情報、製品需要の変動、為替相場の影響、国内外の各種規制、会計基準・慣行等の変更により、大幅に異なる可能性があることをご留意ください。
- 本資料は情報の提供を目的として作成したものであり、本資料によって何らかの行動を勧誘するものではありません。